



「民族共生の象徴となる空間」における博物館基本構想の概要

アイヌ政策推進会議作業部会報告(平成23年6月)に基づき、「民族共生の象徴となる空間」(北海道白老町を予定)に設置される博物館の整備、運営に関するあり方や方向性を検討するため、平成24年3月に「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会(座長:佐々木利和北海道大学特任教授)を設置し、全9回の調査検討を重ね、博物館の理念・目的、基本的な業務等について「博物館基本構想」としてとりまとめた。

1. 博物館の理念

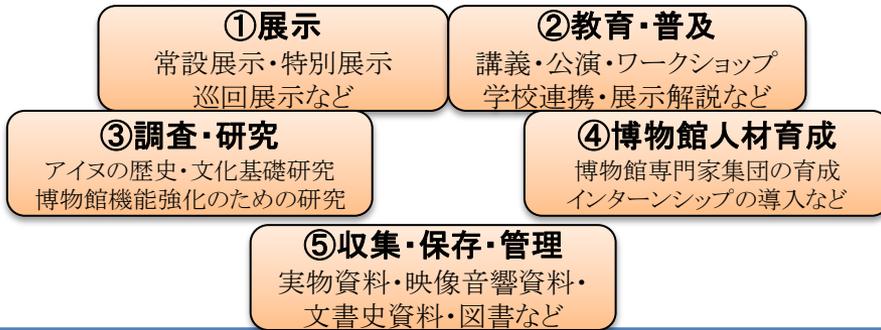
『先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。』

2. 博物館の目的

- ◎アイヌの歴史、文化、精神世界等に関する正しい知識を提供し、理解を促進する博物館
- ◎アイヌの歴史と文化に関する十分な知識を持つ次世代の博物館専門家を育成する博物館
- ◎アイヌの歴史と文化に関する調査と研究を行う博物館
- ◎アイヌの歴史、文化等を展示する博物館等をつなぐネットワーク拠点となる博物館

3. 博物館の基本的な業務

博物館の目的を果たすため、①展示、②教育・普及、③調査・研究、④博物館人材育成、⑤収集・保存・管理の5つの基本的な業務を行う。



4. 博物館のネットワーク

象徴空間に設置される博物館を中心としたアイヌに関する資料とアイヌ文化等の情報に関するネットワークを構築。

※開館前にネットワークシステムを構築し、できるだけ早い段階で連絡協議会等を設置。

5. 博物館の組織・運営

○国が主体的な役割を担うとともに、地方公共団体、民間団体等がそれぞれの役割に応じて連携・協力。

○アイヌの人々が参画できる体制を構築。

○象徴空間内の他の機能との一体的な管理運営を検討。

今後のスケジュール

○平成26年度中を目途に「博物館基本計画」を策定する予定。

※なお、「博物館基本計画」策定後は、これを基に施設・展示の基本設計及び実施設計に着手する予定。